


■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

*****: 著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

CC: 著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

: パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

なし: 上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。無償で、非営利かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 Today OCW 朝日講座「知の冒険」
Copyright 2012, 菅野覚明

The University of Tokyo / Today OCW The Asahi Lectures “Adventures of the Mind”
Copyright 2012, Kakumyo Kanno

極楽浄土はどこにある？

1. 常識的な「幸福」観

「隨身の三宝」(吉田兼俱『唯一神道名法要集』中道大系「下訂補遺」上)

一は寿命也。二は無病也。三は福祿也。

←『大智度論』「採初品中戒相義」オ22-1 (大正1509, P.155b)

一切宝中人命一。人為命故求財。不為財故求命。以是故。

仏説十不善道中殺罪最在初。五戒中亦最在初。

では、「寿命」「人命」とは、畢竟何であるのか？ (近代の常識では超え切れない)

2. 仏教の考える「絶対的」寿命 → 無量寿, 仏寿無量

① 寿命の定義

命 = そのものがそのものであること, 寿 = そのものがそのものであること(命)の
→ 「電池の寿命」 継続時間

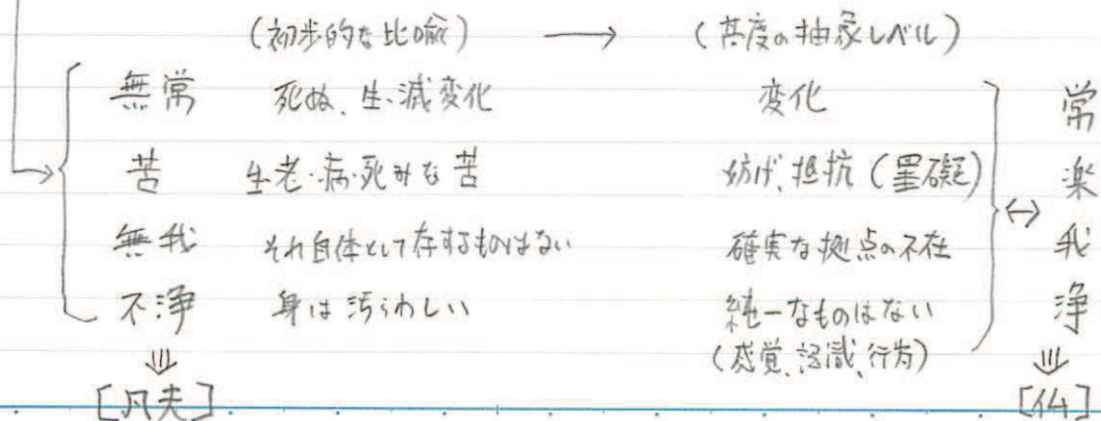
② 寿命が問題となる「そのもの」 → 「自己」(人間の個体だけが、他のものではない)

上の定義に立つて、幸福の三要素を抽象化すると、 今日風に「えい」

- 自己が十全に自己であること (寿命) 自立、自由
(寿の無限、絶対) (命の絶対性)
- 自己が自己であることと妨げるもの無し (無病)
- 自己が十全に自己でありたい、その具体的な (福祿) 仏語で「福德、功徳」
あり方

③ 寿命が問題とされる (= 幸福が追々求められる) 理由

我々の現存(今こ)は、相対因果の中にある → 自己が十全に自己たりえない



3. 凡夫と仏、発心と修行

凡夫の行為(「作」) - 負せぬ、意図に反し、要するに実現不可能(不如意)

常樂我淨は 相対因果の内にはない

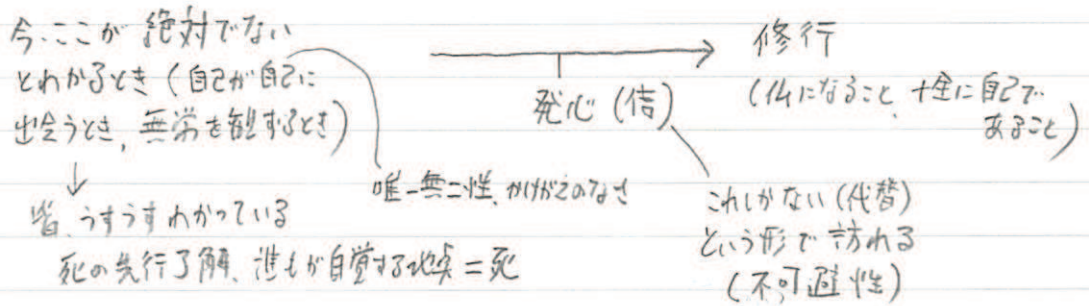


仏の行為(「無作」) とはえず 凡夫の行為、凡夫の世界 ないもの とはあらわれる

相対因果からの離脱(解脱)

しかし、相対因果でない行為(絶対的行為)は、空論でなく、具体物にあるもの(修行)と捉えられた

理想からの空想的な離脱ではなく、現実の物の捉え直しとあらわれる。



ただし、凡夫から仏への転換は、理論的には同時的(煩惱即菩提)であるが、実践的にはもちろん段階、進歩の過程がある。

(理論的転換の典型的な形) 地獄と浄土は対になっている。

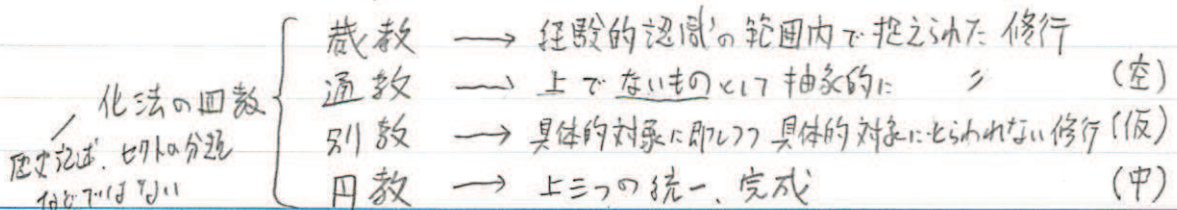
地獄と極楽は、車からとっては同じ (食する、人愛する 此)

同じ行為が、一方では無常~, 一方では常~。

この対比、転換は、日常行為と修行とが外形上は同じでありながら、

一方が無常~, 一方が常~ の両面とアロジカル。

4. 修行の段階、深度の記述としての仏教理論



蔵 通 別 円	→	同居穢土, 同居淨土	→	天台では、いわゆる極楽はここにある。
	→	方便有余土	→	淨土教では、ここに極楽
	→	眞実報土		
	→	常寂光土		

事からしては同じこの現実世界
 修行のありよう(心の状態)に応じた分類
 (要するに修行の「位」を、世界の風景を比喻として説いている)

蔵(いわゆる小乘)の段階では、身心の具体的な否定として修行が捉えられる
 (現実の生、個体の生の枠内)

通(大小共通 空の認識)の段階では、身心を持たない自己の行為として体現された修行
 (関係性の総体を離脱して自己) が行われた。

別(いわゆる大乘菩薩)の段階では、身心を具体的な行為がそのまま無作空として
 行われた。

5. 極楽という方便、極楽のありか

極楽淨土は、もともと 初步の段階の修行者のための「図解」「比喩」

→ 穢土の反転として提示される修行世界

ゆえに、修行者でない人にも、死の瞬間の反転として理解できる。

極楽淨土は、修行行為の中に立ちあらわされる世界の一つの形

(例として、「南無阿彌陀仏」の称名の中に)

6. 淨土の図解の果てに思い描ける「幸福」

自己が十全に自己であること = 他者が十全に他者であること (無礙自在)

(自己を知り = 他者を知り = 他者に知られる / 自己を愛する = ……)

同時成道、悉皆成佛、独立自在即合一

寿命の無限性 = 全他者、全事物、全関係の無限性 = 修行の無限性
 (万法)

修行する者としての自己の寿命は無限。